

## 第34回胃外科・術後障害研究会開催にあたって

帝京大学医学部外科 沖永功太

第34回胃外科・術後障害研究会を開催させていただくこととなり、伝統ある本研究会を当教室にてお世話させていただきますことは誠に光栄なことで、北島教授はじめ役員の方々に感謝申し上げます。

本研究会では、主題として昨年の三輪教授の上部胃癌に関連して「噴門側切除の適応と問題点」をとりあげ、さらに「胃術後機能の評価」を主題とさせていただきました。噴門側切除は既に数年前からのテーマではありますが、依然意見の一致を見ない部分も多いかと思えます。胃の術後機能の評価法も最近多少変わってきているようですので、さらに客観的な評価法の確立が必要と考えたからであります。またいくつかの要望演題を掲げましたところ、これらの主題関連では32題、要望演題などには51題と多数の演題を頂きましたこと厚く御礼申し上げます。研究会のあり方としては、このような専門的な特定のテーマについて十分な議論をすることにあると思えますが、実際にプログラムを策定してみると、それほどの時間的余裕がない状況となってしまいました。しかし、活発な議論のもとで実りある会であることを念じております。

特別講演には胃癌手術について極めて多数の経験をお持ちの韓国 Yonsei University の Sung Hoon Noh 教授に “Gastric cancer surgery in the laparoscopic era” という講演をお願いしております。第1日目のイブニングセミナーでは胃切除術後の骨粗鬆症に関連したテーマで、東京都老人医療センターの林 泰史先生と東京慈恵会医科大学の鈴木 裕先生をお願い致しました。また第2日目のランチョンセミナーでは、主題の胃術後機能の評価に関連して、群馬大学大学院病態総合外科の持木彫人先生による「消化管運動の基礎と消化器外科手術後の消化管運動」という講演を予定しております。

会場の池袋は私どもにとりましていわば地元であります。東京でも少し中心からはずれておりますものの、JR 池袋駅からは徒歩の距離でありますので、どうか多数の先生方のご参加をお待ちしております。